

◆Illustratorの要注意機能について確認漏れはないか

H-1 オーバープリントについて

オーバープリントは破棄されます。

Illustratorには、カラーに関する属性で“塗り(線)にオーバープリント”をオンにすることによって、ノセ(オーバープリント)になる機能があります。弊社でお受けする印刷では“塗り(線)にオーバープリント”をオンにされても原則オーバープリントはかかりません。(K100%はノセ処理となります)。

また、透明や効果に影響された場合、オーバープリント設定が反映される場合があるなど、オーバープリント設定はトラブルの原因となります。

トラブル防止のため、オーバープリントのチェックは外して下さい。

※オーバープリント設定の有無はデータチェックの対象になりません。使用される際は自己責任となりますので、あらかじめご了承ください。また、Illustrator8.0xをご使用の場合は、画面上でも確認できない上に機種によってはプリントアウトされたものでも確認ができません。特にご注意ください。

H-2 ホワイト(白)のオーバープリントの危険性

Illustratorでは、図形ごとにオーバープリントを設定することができます。(属性ウィンドウにてチェック可能です)但し、ホワイト(CMYK全て0%の設定)のオブジェクトにオーバープリントを行ってしまうと、下地の色と完全に同化する(透明になる)ことになり、見えなくなってしまう可能性があります。ご入稿前に「オーバープリントプレビュー」にてご確認いただくことをおすすめ致します。(バージョン9以降)

H-3 透明効果(透明機能)に関わる設定について

Illustrator9以降のバージョンで、ラスター効果設定と書類設定(透明タブ)によっては品質を落とす可能性があります。そのため、弊社では以下の設定にされることをおすすめ致しております。

・ラスター効果設定

「ラスター効果設定:解像度」で、「ドロップシャドウ」など、ぼかしの効果を適用した部分における解像度を調整しています。

・Illustrator9

効果メニュー>ラスタライズ>ラスター効果設定 を選択します。

「カラーモード:CMYK」、「解像度:高解像度(300dpi)」、又はその他の欄に適正な値を入力してください。(背景、オプション については任意で設定してください)

・Illustrator10

効果メニュー>書類のラスター効果設定 を選択します。

「カラーモード:CMYK」、「解像度:高解像度(300dpi)」、又はその他の欄に適正な値を入力してください。(背景、オプション については任意で設定してください)

・IllustratorCS

効果メニュー>書類のラスタライズ効果設定 を選択します。

「カラーモード:CMYK」、「解像度:高解像度(300dpi)」、又はその他の欄に適正な値を入力してください。(背景、オプション については任意で設定してください)

・IllustratorCS2以降

効果メニュー>ドキュメントのラスタライズ効果設定 を選択します。

「カラーモード:CMYK」、「解像度:高解像度(300dpi)」、又はその他の欄に適正な値を入力してください。(背景、オプション については任意で設定してください)

・書類設定

「ラスター効果設定:解像度」で、「ドロップシャドウ」など、ぼかしの効果を適用した部分における解像度を調整しています。

・Illustrator9

ファイルメニュー>書類設定>透明タブを選択します。

「プリント・データ書き出し」で「画質/速度:高画質/低速」にスライダを合わせます。

・Illustrator10

ファイルメニュー>書類設定>透明タブを選択します。

「分割設定」の「ラスタライズ/ベクトル設定」ベクトルの値を「100」に、「可能な場合オーバープリントを保持」を「オン」に設定します。

・IllustratorCS

ファイルメニュー>書類設定>透明タブを選択します。

「書き出しとクリップボードにおける分割・統合」で高解像度を選択、又は「カスタム」ボタンをクリックし、オプション設定でベクトルの値を「100」、「ラインアートとテキストの解像度:1200ppi」、「グラデーションとメッシュの解像度:400ppi」に設定します。

さらに、ウィンドウメニュー>分割・統合プレビュー でも同様の設定をしてください。

・IllustratorCS2以降

ファイルメニュー>ドキュメント設定>透明タブを選択します。

「書き出しとクリップボードにおける分割・統合」で高解像度を選択、又は「カスタム」ボタンをクリックし、オプション設定でベクトルの値を「100」、「ラインアートとテキストの解像度:1200ppi」、「グラデーションとメッシュの解像度:400ppi」に設定します。

さらに、ウインドウメニュー>分割・統合プレビュー でも同様の設定をしてください。

H-4 パターン機能と透明効果、同時使用時の注意事項

パターンを使用した部品の上に、透明効果を施した部品が配置されている場合、まれに細い罫線が印刷に入ってしまう場合があります。

Illustratorでは、パスで作成した絵柄をスウォッチパレットに登録する事で「塗り」や「線」として使用できる「パターン機能」があります。パターンを適用したオブジェクトは、見た目には一つの部品ですが、実際にはタイルのように分割された状態で処理されています。

このパターンの上に透明効果を施した部品が配置されている場合、製版処理の関係で、まれに細い罫線が印刷に現れてしまう場合があります。

回避策としては、パターンに重なる形での透明効果の使用をできるだけ避けていただくしかありません。

※透明効果を使用していなくても、登録した絵柄の端に余白がありますと、パターンに隙間が発生しますのでご注意ください。

H-5 マスク(クリッピングマスク)機能の注意事項

Illustratorのマスク機能はよく使用されますが、注意が必要です。

- ・Illustrator9以降 オブジェクト>クリッピングマスク
- ・Illustrator8 オブジェクト>マスク

マスクに使用したオブジェクトの線に対して色設定をすると、ポストスクリプトの解析上、実線で指定したが破線になってしまったり、指定した色設定と異なったり、指定した色設定が無効になってしまうなどの意図しない結果となる場合があります。

回避策としては、マスクオブジェクトには色設定をせず、同座標上に同じ形のオブジェクトを重ねて色指定を行っていただく方法があります。